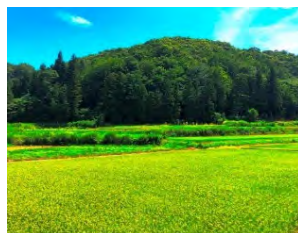


11 棚田を未来に残すため、市民が米づくりを身近に感じられる棚田オーナー制度を開始

【明晶集落の棚田・新潟県見附市】

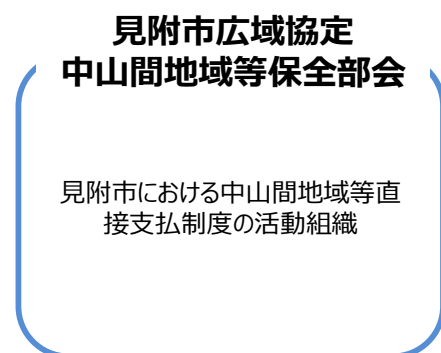
- 指定棚田地域の指定によって中山間地域等直接支払制度の対象となった集落で、棚田地域振興活動加算を活用し、棚田オーナー制度を開始した。
- 「農」に関する運営、情報発信のノウハウを持つ支援法人と、棚田を守り続けてきた集落の連携により、楽しみながら米づくりが学べる棚田オーナー制度を実現した。

基本情報

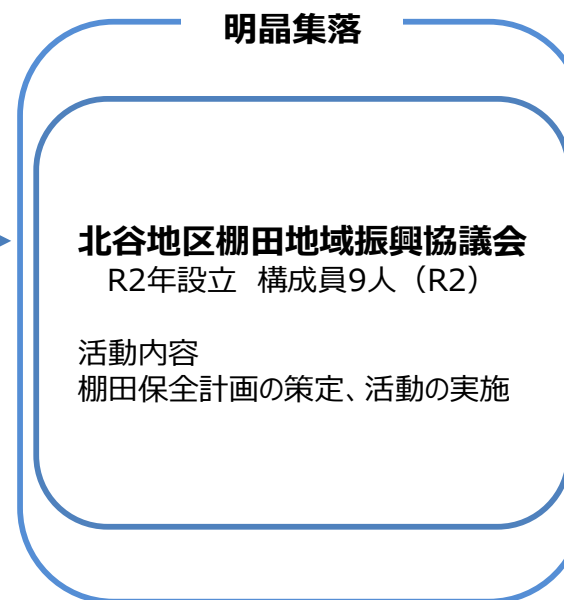


- 棚田の名称 : 明晶集落の棚田
- 面積 : 1.3ha
- 指定棚田地域 : 旧北谷村
- 認定・表彰実績 :
令和2年に指定棚田地域に指定

協議会の構成員と体制



加盟
活動



国

新潟県

見附市

教育
農体験

地元小学校

棚田米
販売

飲食店

商品開発

企業

参加
交流

都市住民

活用した関係省庁の事業

活用した事業名 : 中山間地域等直接支払制度
活用のポイント : 棚田地域振興活動加算

コンシェルジュの活用状況

協議会からコンシェルジュに相談したこと : なし

取組前の地域の状況

山間部の生産条件の厳しさから、耕作の継続が危惧されていた

明晶集落の棚田は、防災、環境保全、景観の形成等、多面的な機能を果たしている。北向き傾斜で区画も狭く生産条件は厳しいが、中山間地域等直接支払制度の第4期対策までは対象となっておらず、収益性・作業性等の面から耕作の継続が危惧されていた。

棚田地域振興法の施行により、明晶集落の棚田が中山間地域等直接支払制度の対象となったことから、棚田保全に向けた取組を進めることとなった。

棚田地域振興活動計画に基づく 取組内容

土地利用

・荒廃農地の発生防止

明晶集落が中心となり、草刈り、水路の泥上げ、側溝の泥上げを行った。



荒廃農地の発生防止活動

活力づくり

・棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

棚田米をブランド化し販売を行った。店舗販売や飲食店を行っている。

・棚田を核とした棚田地域の振興

棚田オーナー制度を実施している。個人オーナー、企業オーナー、小学校オーナーの3種類にて活動を行っている。



棚田オーナー

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

・荒廃農地ゼロを維持

指定棚田地域に指定後、荒廃農地ゼロを維持している。

活力づくり

・棚田オーナー制度の継続と企業との連携

棚田オーナー制度の継続により毎年安定して参加者が集まり、関係人口の増加に繋がっている。また企業との連携による「玄米茶」、「玄米カイロ」の開発を行った。

棚田オーナー制度申し込み口数

	個人	企業	学校	合計
令和3年度	16口	2口	1口	19口
令和4年度	12口	2口	1口	15口
令和5年度	12口	3口	1口	16口

玄米茶



玄米カイロ



12 里山アセットマネジメントによる棚田と空き家の一体的再生と保全

〔蒲生の棚田、儀明の棚田・新潟県十日町市〕

○棚田の景観・経験・環境価値を、都市部からの宿泊需要として可視化。農業法人が宿泊・飲食機能も提供することで、観光、テレワーク、二拠点居住、移住などの宿泊需要を取り込み収入源を多様化。小規模価値集約型の棚田地域再生モデルを実現。

基本情報

旧山平村
新潟県

蒲生の棚田

儀明の棚田

- 棚田の名称 : 蒲生の棚田
儀明の棚田
- 面積 : 2 ha
- 指定棚田地域 : 旧山平村
- 認定・表彰実績 : つなぐ棚田遺産認定



活用した関係省庁の事業

- サステナブルな観光コンテンツ強化事業（観光庁）
ポイント：五感で棚田を感じる旅
- ジャパンブランド育成支援事業（経済産業省）
ポイント：里山ラグジュアリー体験

コンシェルジュの活用状況

- 利用可能な補助事業について省庁横断的に紹介を受けた
- 農水省が所管する補助事業について、申請方法等についてのアドバイスを受けた

取組前の蒲生集落の状況

・高齢化・人口減少

高齢化と人口減少が同時に進行

H22 120人

H27 96人

R2 69人

(R7 53人) 予測

出典：蒲生人口推計

・耕作放棄

R2の動向

・儀明の棚田

43aが放棄の危機に瀕していた

・蒲生の棚田

新たに40aの耕作放棄が発生

・低付加価値

・米のブランド化は未済

・慣行農法のみで自然農法は行われず

・加工による高付加価値化は無し

・空き家増加

空き家は多かったが、賃借できる物件はほぼなく、農家民宿もなかった。

・関係人口減少

早稲田大学のセミナーハウスが閉鎖され、40年以上続いたベースとなる関係人口の往来が途絶えた

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・儀明の棚田の承継

耕作放棄の瀬戸際にあった儀明の棚田43aの耕作を承継。(R2)

・蒲生の棚田の復田

R2から3年間放棄された40aを復田し耕作再開 (R5)



荒廃農地の再生活動

しごとづくり

・高付加価値化

米を「儀明の桜」としてブランド化、高級どぶろくコンポジション醸造、高級農家民宿トロノキハウス開業

活力づくり

・耕作主体を法人化

農業法人株式会社トロノキファームを設立し地元農家らを取締役に迎え、地域おこし協力隊と連携して活動

・非営利一般社団法人を設立

オーナー制等会員制度の母体としてトロノキ棚田トラストを設立



ジョソササイズイベント

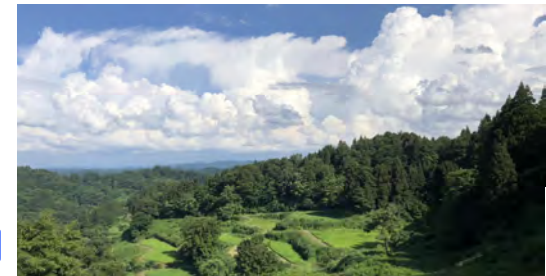
取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

儀明の棚田

桜と棚田の景観が放棄地となるのを防いだ

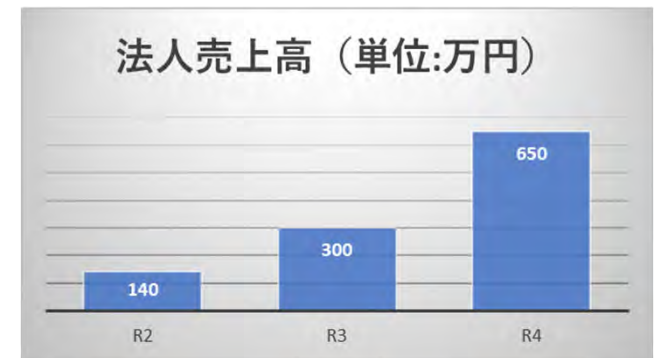
蒲生の棚田最大の放棄地を抱えていた農家から借地し、重機を投入して短期間で復田し田植えを実施。放棄地は約半分程度にまで減少。



しごとづくり

農業法人の売上が大幅に増加

法人売上高（単位:万円）



活力づくり

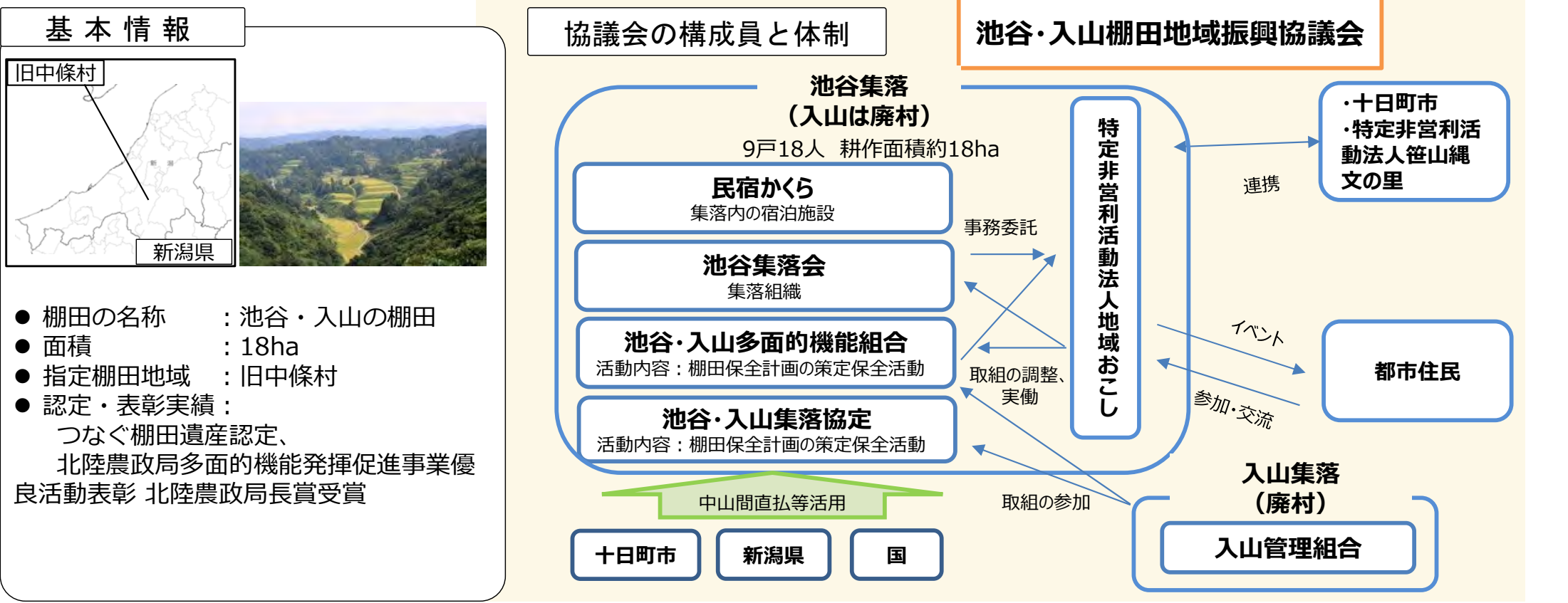
保全活動参加者の増加

企業、大学、個人ボランティアなど様々な主体が参加し、保全活動参加者が増加。

移住者増加


R2～R5で8名が移住（内1名は二地域居住）現在の人口の約1割を移住者が占める

○独自ブランド米を生産から情報発信、販売まで一貫して行い、棚田オーナー制度、各種イベントなどによる棚田ファンの獲得するなど先を見据えた棚田保全活動を実現。



活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名
棚田みらい応援団（新潟県庁）
- 活用のポイント
農作業の人手の確保＆交流目的



コンシェルジュの活用状況

- 協議会からコンシェルジュに相談したこと
特に活用していない。

取組前の地域の状況

棚田米の直接販売量が伸び悩む

独自ブランドである棚田米「山清水米」のインターネット直接販売量が平成27年度の10tをピークに一度落ち込み、令和2年度にようやく10tを超えた。販売促進を行う事が必要な状況であった。



イベントの受入れ体制

棚田関連のイベントは平成20年度から継続して行っているが、集落内の住民の高齢化などにより交流会内容の制限や、ただ参加してもらうだけの一過性のイベントにならず、次に繋がるような取組や工夫が必要な状況。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

しごとづくり

・販売促進

集落内の耕作者で生産、NPO法人地域おこしが販売者となり販売を行っている棚田米（山清水米）をNPO法人地域おこしが中心となりyoutubeやInstagramなどの拡散力のあるプラットフォームで宣伝活動を行い認知度を高めたり、ふるさと納税の返礼品として活用することでインターネット直接販売量を増加させる。



活力づくり

・オーナー制度の充実

WEB 広告マーケティングやInstagram等の SNS の運用に携わる有識者を募集し、棚田オーナーを増やすための運用方法を学び、実践することで棚田オーナーを増加させる。また、リピーターやコアなファンによる新たな棚田保全の形を作り上げる。

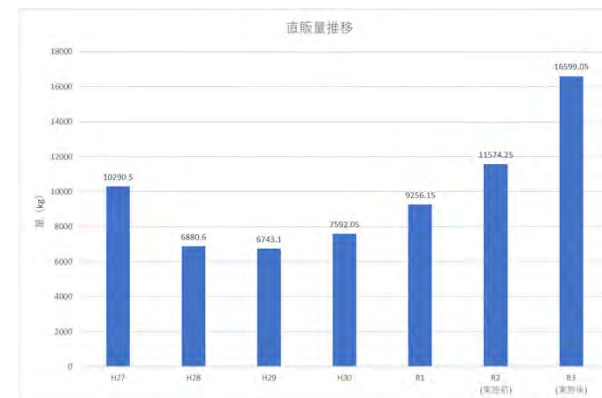


取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

直接販売量の増加

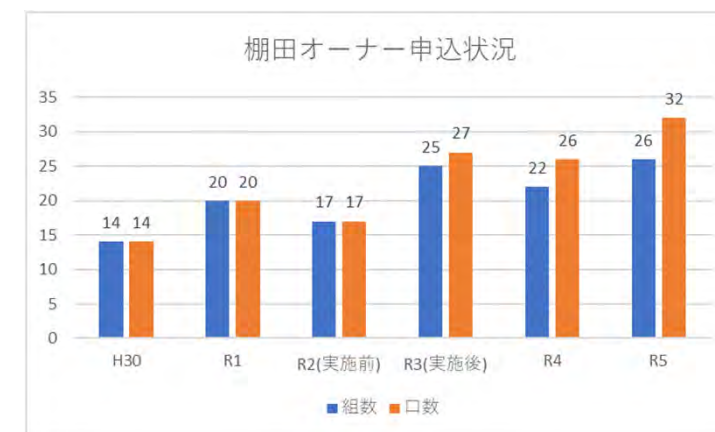
販売促進の効果によりR2年度の11574.25kgからR3年度は16599.05kgと販売量が 증가した。



活力づくり

棚田オーナーの申し込み状況の改善

実施前（R2）に比べR3年以降は増加傾向にある。特にR5年度現在は前年度からのリピーターが26組中17組となっており、リピーターを中心にイベント外での棚田の草刈りやその他作業にも参加してもらうなど新たな保全の形が生まれるなどの効果があった。



14 棚田米「きんのあき」のブランド化や新規作物へのチャレンジで農業を活性化

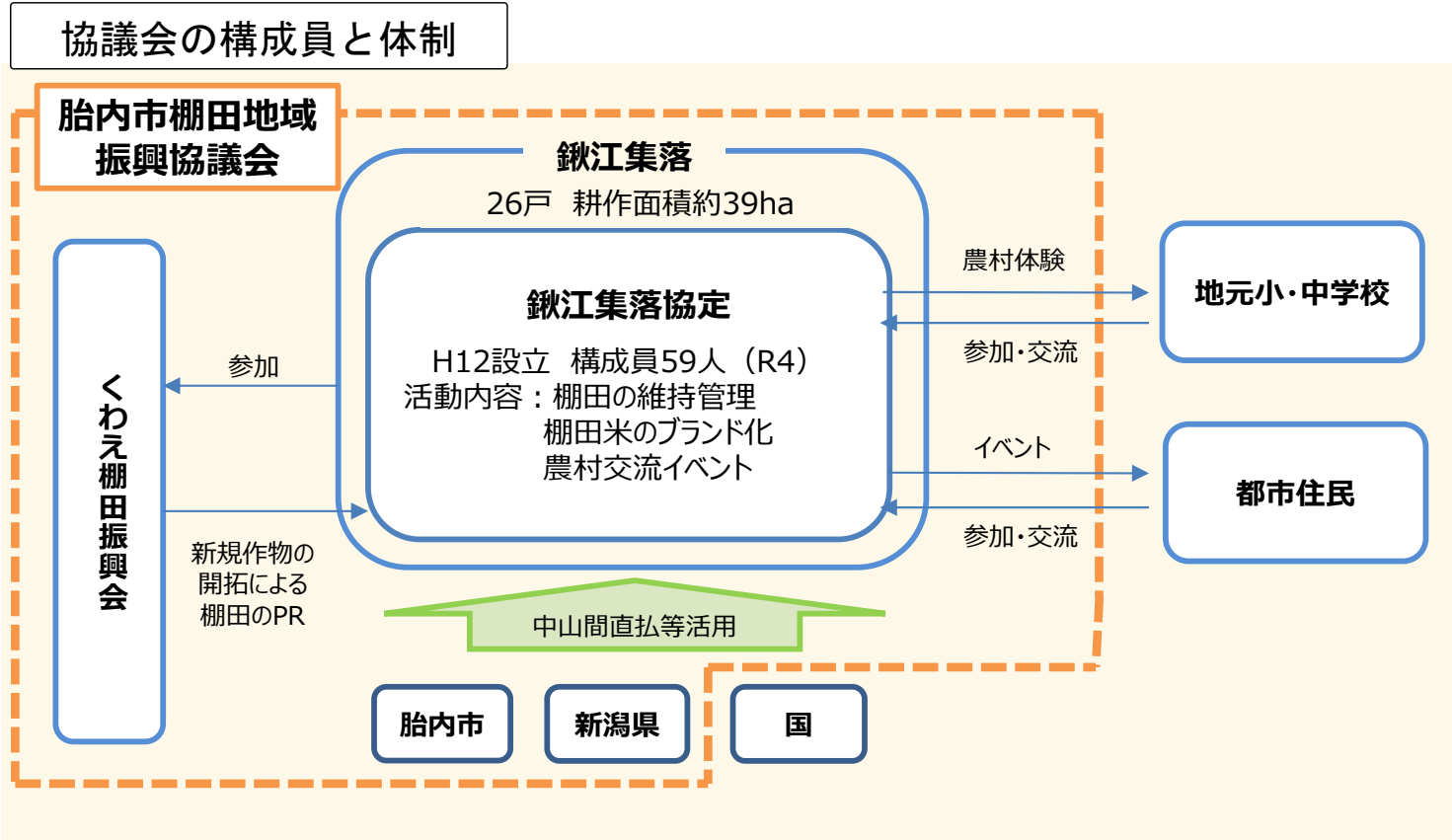
【鍬江の棚田・新潟県胎内市】

○ 中山間直払の集落協定を起点に、集落ぐるみで棚田保全・商品開発・都市農村交流を展開し、棚田の良さをPR

基本情報




- 棚田の名称 : 鍬江の棚田
- 面積 : 18.4ha
- 指定棚田地域 : 旧黒川村
- 認定・表彰実績 : つなぐ棚田遺産認定



活用した関係省庁の事業

- 農山漁村振興交付金 (中山間地農業ルネッサンス推進事業)
- 水稻+αで栽培可能な高収益作物の栽培実証を行い、棚田の更なるPRと農家の所得向上に取り組んでいる。



コンシェルジュの活用状況

- なし

取組前の地域の状況

鳥獣被害の増加

サルやシカ等による被害に加え、近年はイノシシによる水稻をはじめとした農作物被害が増加している。

それらが生産意欲の減退をもたらし、農業従事者の高齢化に輪をかけて担い手が減少する要因となっている。



水稻に依存した農業

米価が長期にわたって下落傾向にあり、ただでさえ収量が低く作業効率の悪い中山間地域における水稻単一経営は、非常に厳しい状況に置かれている。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・鳥獣被害対策の強化

中山間直払の棚田加算を活用して、農地の見回り作業を実施。また、電気柵を新たに設置し、集落ぐるみで農地の維持管理と棚田米の安定供給に努めている。



しごとづくり

・棚田米「きののあき」のブランド化

地域おこし協力隊が中心となり、棚田米のブランド化に取り組んできた。地元道の駅やホテルに加え、ECサイトやふるさと納税の返礼品としても出品し、販売チャンネルを広げている。

・新規作物（キクラゲ・里芋）へのチャレンジ

農山漁村振興交付金を活用し、新たな高収益作物の実証を開始。

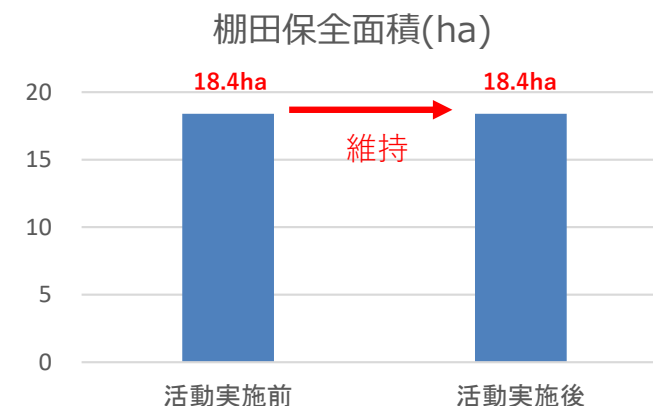


取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

協定取組面積の継続

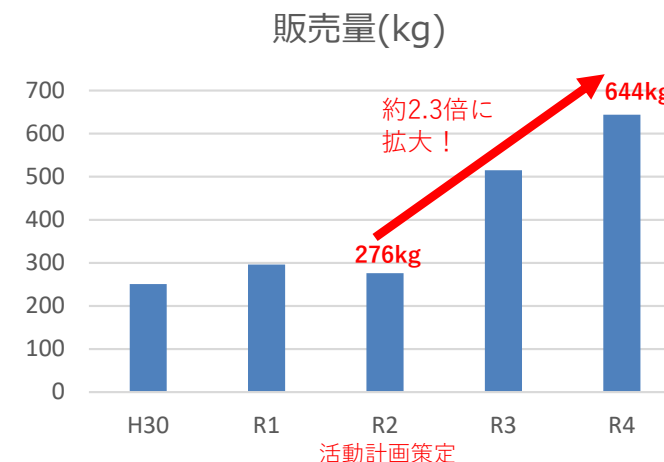
耕作放棄することなく、取組面積を維持。



しごとづくり

棚田米の販売量の増加

販売チャンネル増加に伴い、販売量が大幅に拡大。



15 棚田オーナー制度を核とした担い手確保

【長坂の棚田・富山県氷見市（旧女良村）】

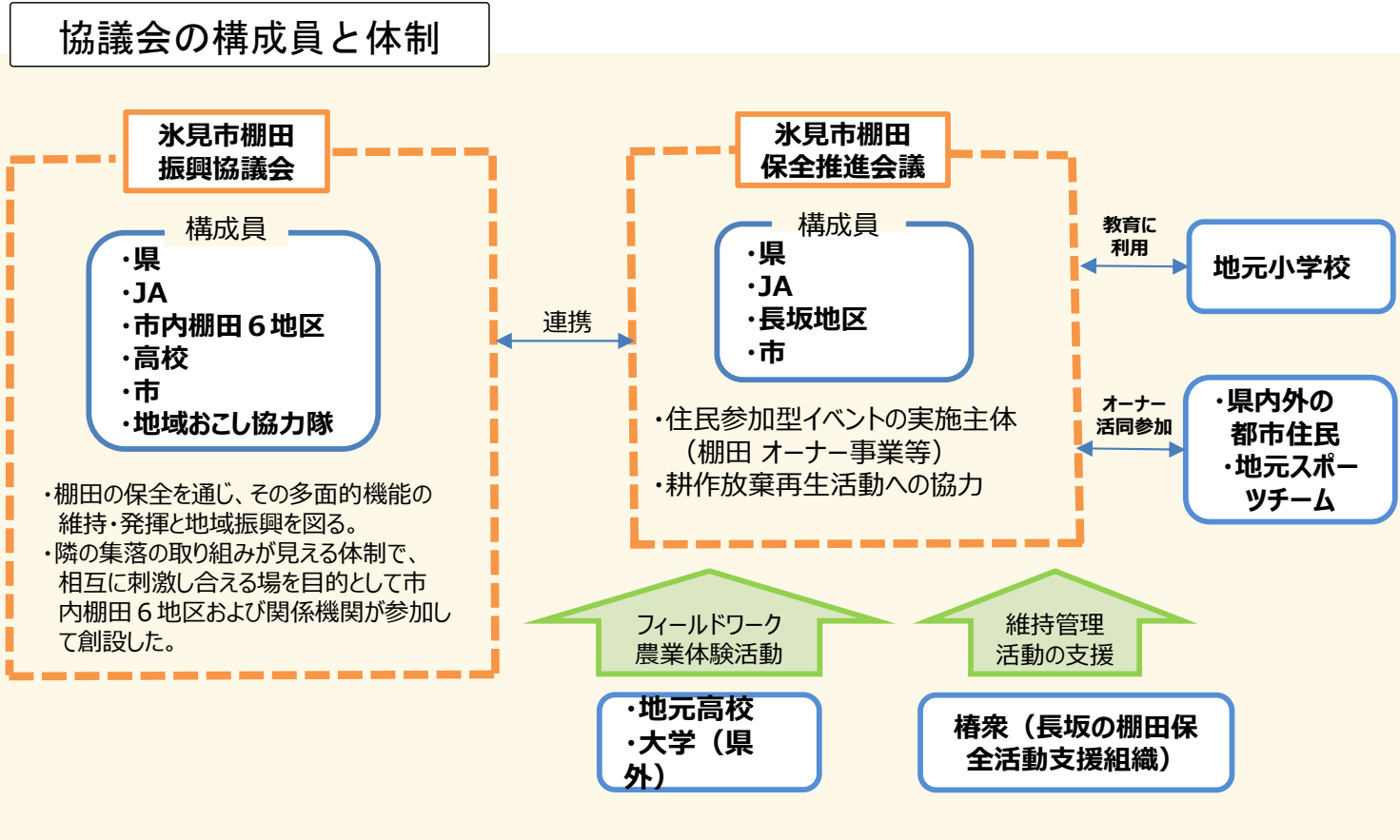
○棚田オーナー事業の充実と圃場整備により、関係人口を増加させ、担い手の確保と耕作放棄地減少を実現

基本情報

長坂地区

富山県

- 棚田の名称 : 長坂の棚田
- 面積 : 18ha
- 指定棚田地域 : 旧女良村
- 認定・表彰実績 :
日本の棚田百選認定、
つなぐ棚田遺産認定、
北陸農政局多面的機能発揮促進事業
優良活動表彰 中山間地域等直接支払
部門



取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

人口の減少、農業従事者の高齢化による担い手不足が深刻な状況であり、また棚田は圃場が小さく、のり面が広いなど、作業効率が悪く耕作放棄地が増加。



雑草が伸び放題になった耕作放棄地



のり面の草刈り活動。
手作業では労力がかかる。

棚田地域振興活動計画に基づく 取組内容

土地利用

・棚田の復旧

10a区画の圃場整備を行い、のり面を広く取り、灌漑設備等に工夫を凝らした。これにより現在の棚田の景観が出来上がった。

水路保全や草刈り活動



水路の整備



斜面用草刈り機を導入

活力づくり

・オーナー事業の充実

棚田オーナー、地元スポーツチーム、地元の高校、小学校など保全活動への参加を促し、オーナー事業の充実を図る。

棚田オーナー

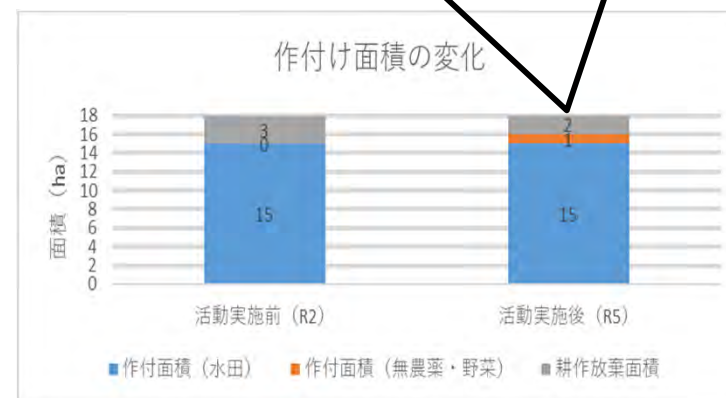


取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

圃場整備による農地の確保と県外からの移住者の活動により、耕作放棄面積が減少

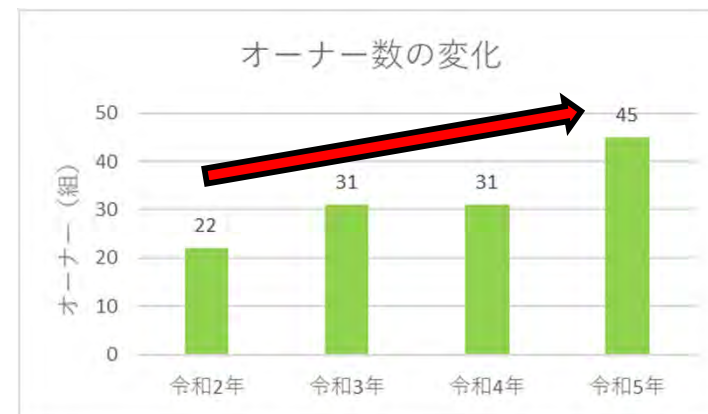
移住者2名が就農したことにより耕作放棄地が減少



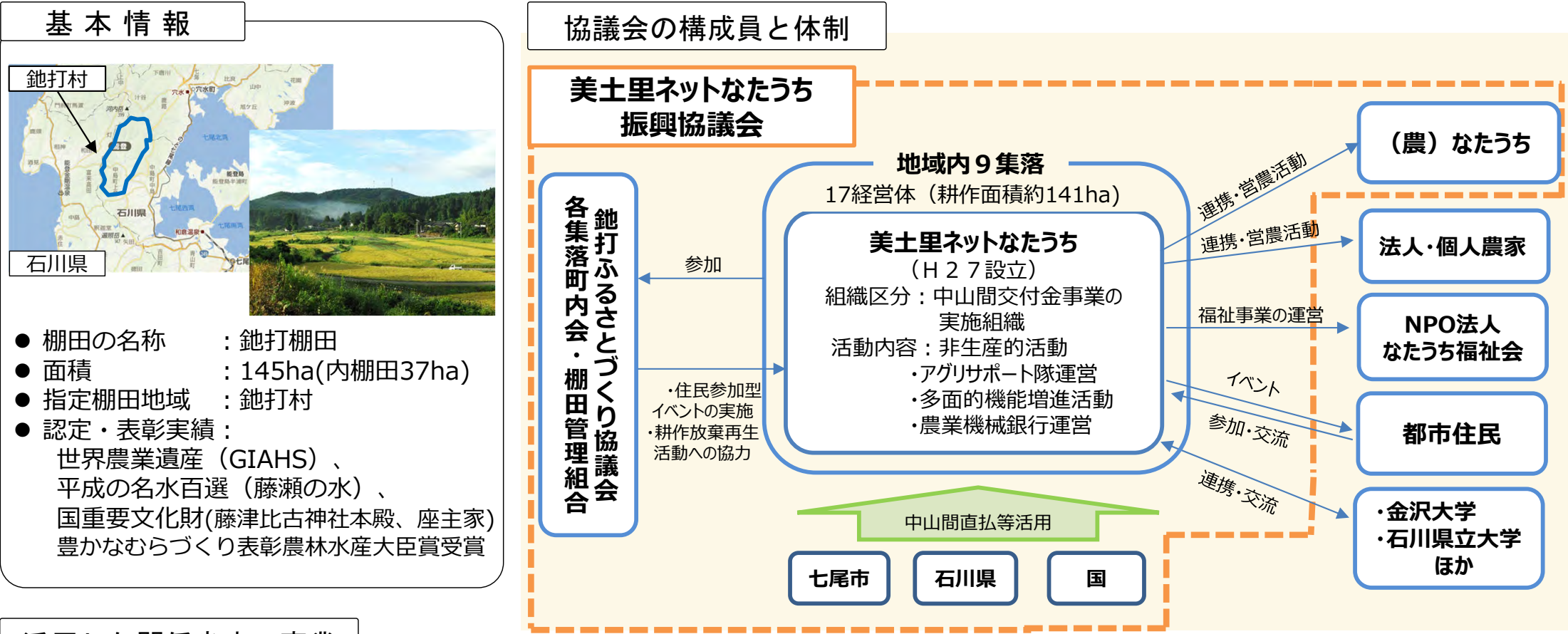
活力づくり

オーナーと関係人口の増加

市内から県外まで幅広いオーナーに加え、大学や各種団体との連携による関係人口の増加



○9集落連携で集落営農組織となる「（農）なたうち」と、畦草刈りや福祉事業等の非生産的活動を担う「美土里ネットなたうち」を創設し、地域内での役割分担を図り、農業の持続的な取組や魅力ある地域づくりのための体制を構築。



取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

高齢化による担い手不足が深刻な状況であり、耕作放棄された棚田が地域内でも目立っている状況であった。

また、土地改良事業により、法面が大規模化したこともあり、多大な労力が必要であった。



耕作放棄

棚田米は、生産量が少ない上に、販路も確立しておらず、安定した収入に繋がらなかった。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

担い手の確保と労力の節減

「なたうちアグリサポート隊」を設立し、草刈等非生産的活動への担い手を確保する。また、ドローンやアーム式除草機械の導入と併せ、防草シートを張ることで、労力の節減を図る。

しごとづくり

棚田米の販売促進と6次産業化の推進

棚田米の販売強化と棚田で栽培した大豆を使った「味噌」や能登野菜を使った「漬物」の生産量と販売量を増やすことで、農業者の所得向上を図る。



良好な景観の形成

棚田を取り巻く土地に芝桜や桜を植栽することで、良好な景観づくりに努める。近年はメディアにも取り上げられ、地域に訪れる方が増えており、今後さらなる増加を図る。

くらしづくり

集落機能の向上

高齢者等の買い物支援や通院支援サービスを一層充実させるとともに、地域住民の雇用を増やすことで、永く安心して暮らせる環境整備を図る。

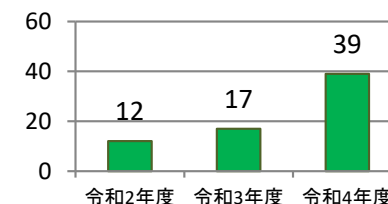
取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

非生産的活動の担い手が増加

農地持ち非農家の非生産的活動への参加が増加し、中でも「なたうちアグリサポート隊」の登録人数が増加するなど、営農組織が営農に集中できる体制が構築された。

アグリサポート隊 登録者数（人）

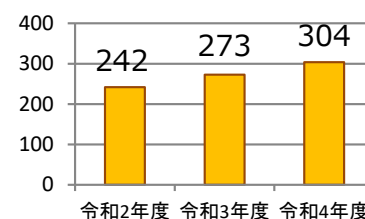


しごとづくり

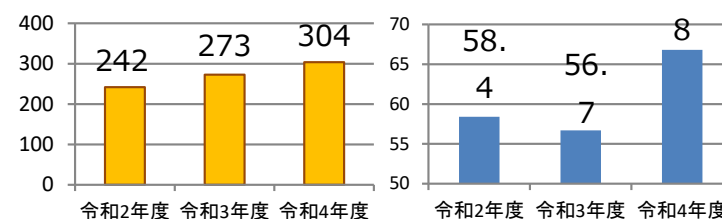
棚田米の販売量／額の増加

棚田米の販売量と販売額が増加したこと、また、低コストの大麦やそばに品目を転換したことなどにより、不作地の拡大を防ぐとともに、農業収益の向上につながった。

米の販売量（t）



米の販売額（百万円）



くらしづくり

住民の生活支援の充実と雇用の場の確保

NPO法人と連携し、買い物支援や通院支援サービスなどを充実させたことで、地域住民の安心安全と働く場の確保につながった。



17 棚田を核とした人を呼び込む地域づくり

【菅浜の棚田・福井県美浜町】

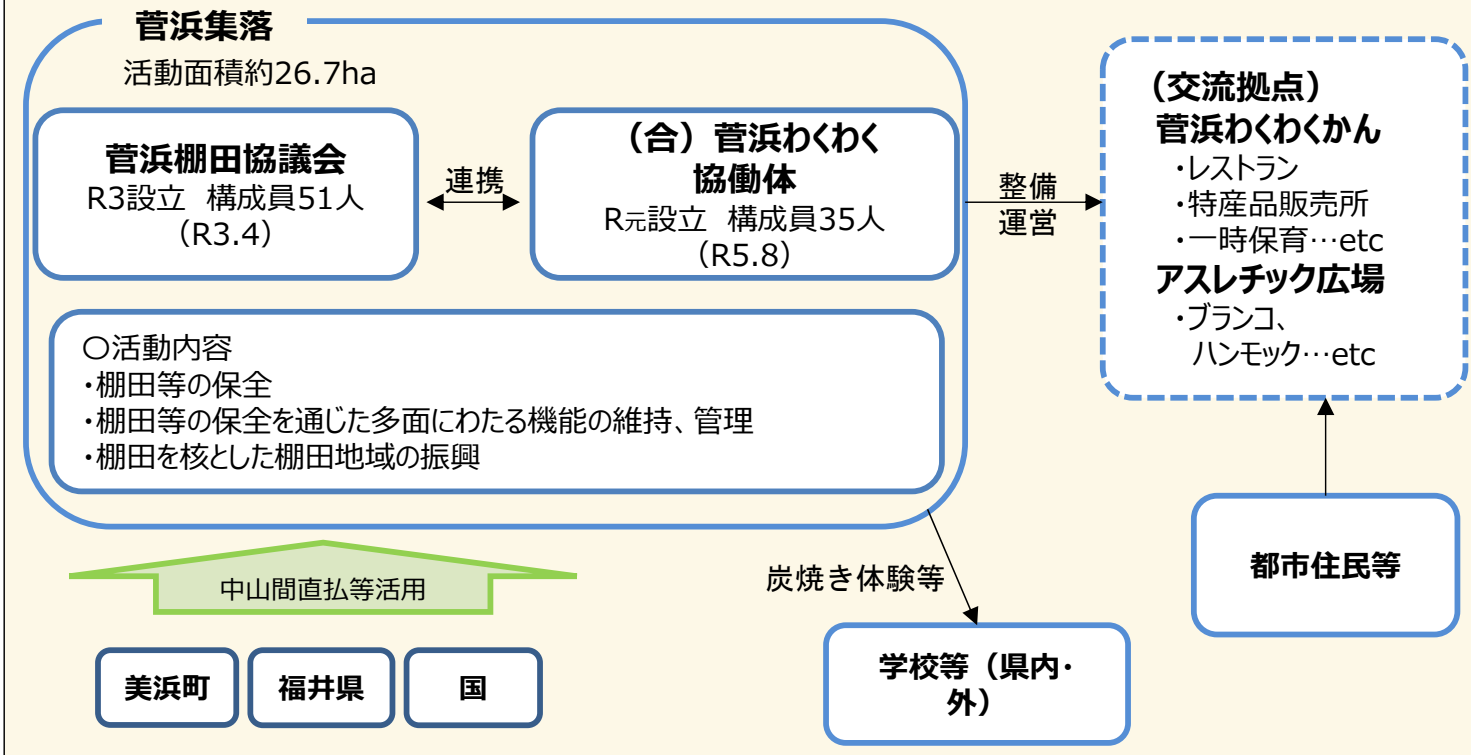
○地元住民、地域活動組織と連携し、耕作放棄の防止・削減、良好な景観の形成、棚田を観光資源とした地域振興に取り組んでいる。

基本情報

- 棚田の名称 : 菅浜の棚田
- 面積 : 26.7ha
(急傾斜地 19.6ha、超急傾斜地7.1ha)
- 指定棚田地域 : 旧山東村
- 認定・表彰実績 : つなぐ棚田遺産認定



協議会の構成員と体制

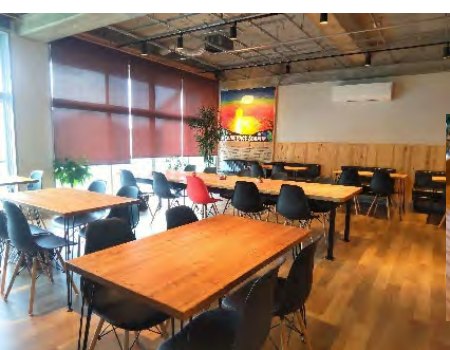


活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名
中山間地域等直接支払交付金
- 活用のポイント
棚田保全のための維持活動等に活用



アスレチック広場



菅浜わくわくかん（店内）と地元産レモンを利用したピザ

取組前の地域の状況

人口減少や高齢化による担い手不足

高齢化による担い手不足が進んでおり、棚田の保全に苦慮している。
耕作放棄地は発生していないため、引き続き維持・管理を行っていく。



地域の活性化

地域協議会と協力し、地域の活性化を進めていきたい。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

しごとづくり

・直売所、レストランの整備

旧保育園跡地を改修し、直売所・レストランを整備。本施設にて、地場産農産物等の販売や、地元食材を使用したピザ等を提供。



棚田米の販売



地元高校生とコラボした
「棚田米ドライキーマカレー」

・景観作物の栽培

レモン、ハーブ（ローゼル、ルッコラ）などを作付。また、直売所・レストランからクリームソクローバーなどの景観植物が鑑賞できるように、作業実施。



ローゼルジャムの作成

土地利用



ハーブ&レモン園の看板

・棚田の維持

定期的な維持管理を行い、耕作放棄地の発生防止に努めている。

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

来訪者数の増加

直売所・レストラン整備、景観作物の栽培により、菅浜地域への来訪者数は増加傾向にある。
また、レストランでの待ち時間に棚田見学をしてもらうなど、棚田を観光資源とした地域振興も期待できる。

○直売所・レストラン（R5.4オープン）

来訪者数：2,000人（R5.4～R5.7）

売上：400万円（R5.4～R5.7）

土地利用

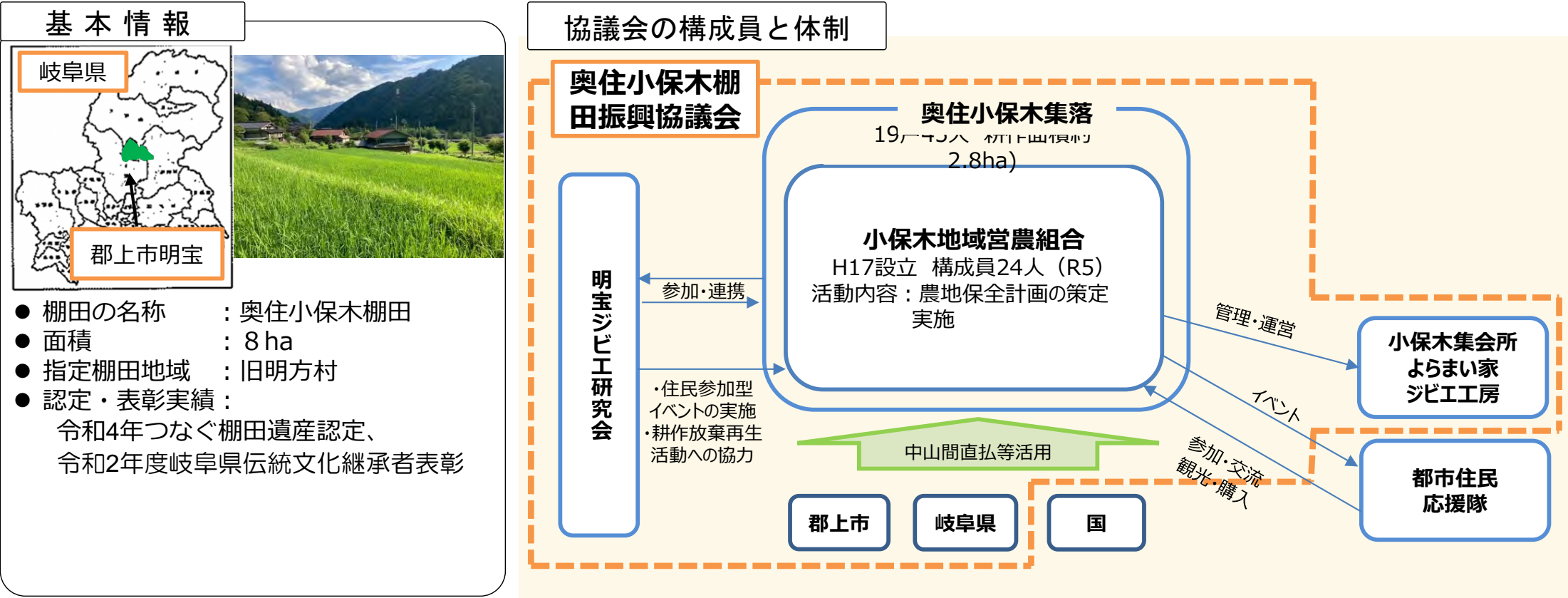
耕作放棄地：0

当初から引き続き、耕作放棄地は発生していない。

18 地域活性化を目指して棚田法の活用による交流事業等の展開

【奥住小保木棚田・岐阜県郡上市明宝】

○棚田オーナー制度を目指して、休耕田を活用し昔の水田作業体験を参加型イベントを通じ、棚田ファン獲得と安定した棚田保全活動を実現。



取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

高齢化による耕作担い手不足が深刻な状況であり、棚田休耕地を組合で管理。



耕作放棄

棚田エリアの畑地は、広大な面積で管理も大変な状況にあったため、新たな活用を検討する必要があった。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・棚田の復旧

協議会とジビエ研究会と連携して都市住民交流ボランティアを募って棚田休耕地に棚田加算を活用し作付け。収穫した米をお土産として提供。経験を通じ棚田オーナー制度の検討。

昔ながらの田植え体験



活力づくり

・ぎふの田舎応援隊やぎふの棚田応援隊の支援活用

棚田エリアの畑地へのブルーベリー植栽活動にぎふの田舎応援隊が支援。高齢化により管理が困難となった棚田の草刈りへのぎふの棚田応援隊の支援により、棚田ファンを増やし活力づくり。



応援隊とのブルーベリー植栽

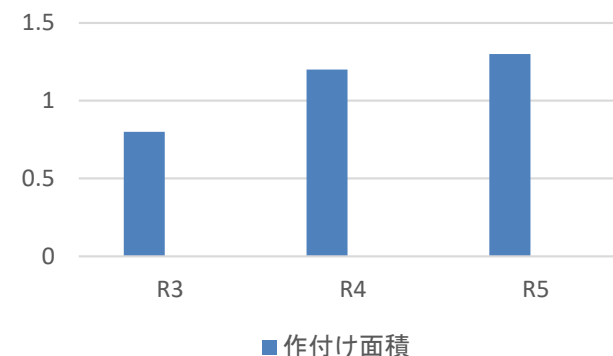
取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

作付け面積の増加

棚田休耕地を復旧し、作付け面積が増加

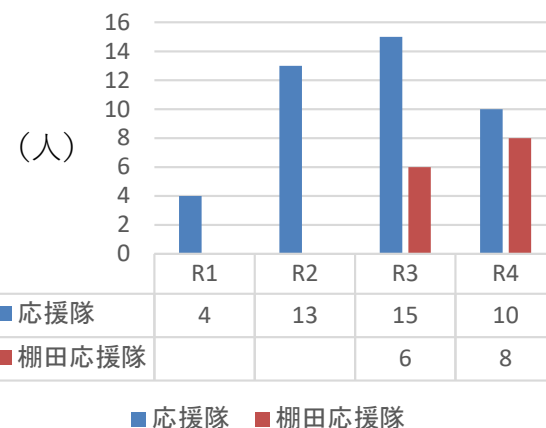
作付け面積 ha



活力づくり

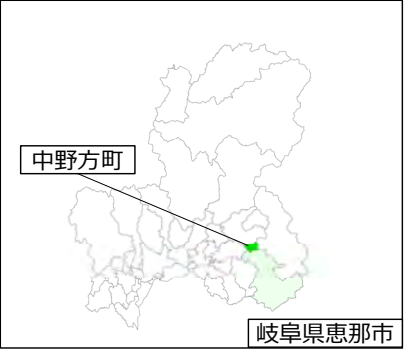
保全活動参加者の増加

応援隊が保全活動に参加し、保全活動参加者が増加。



○ 地域をあげて、多様な人・組織との連携を通じた棚田地域の活性化。

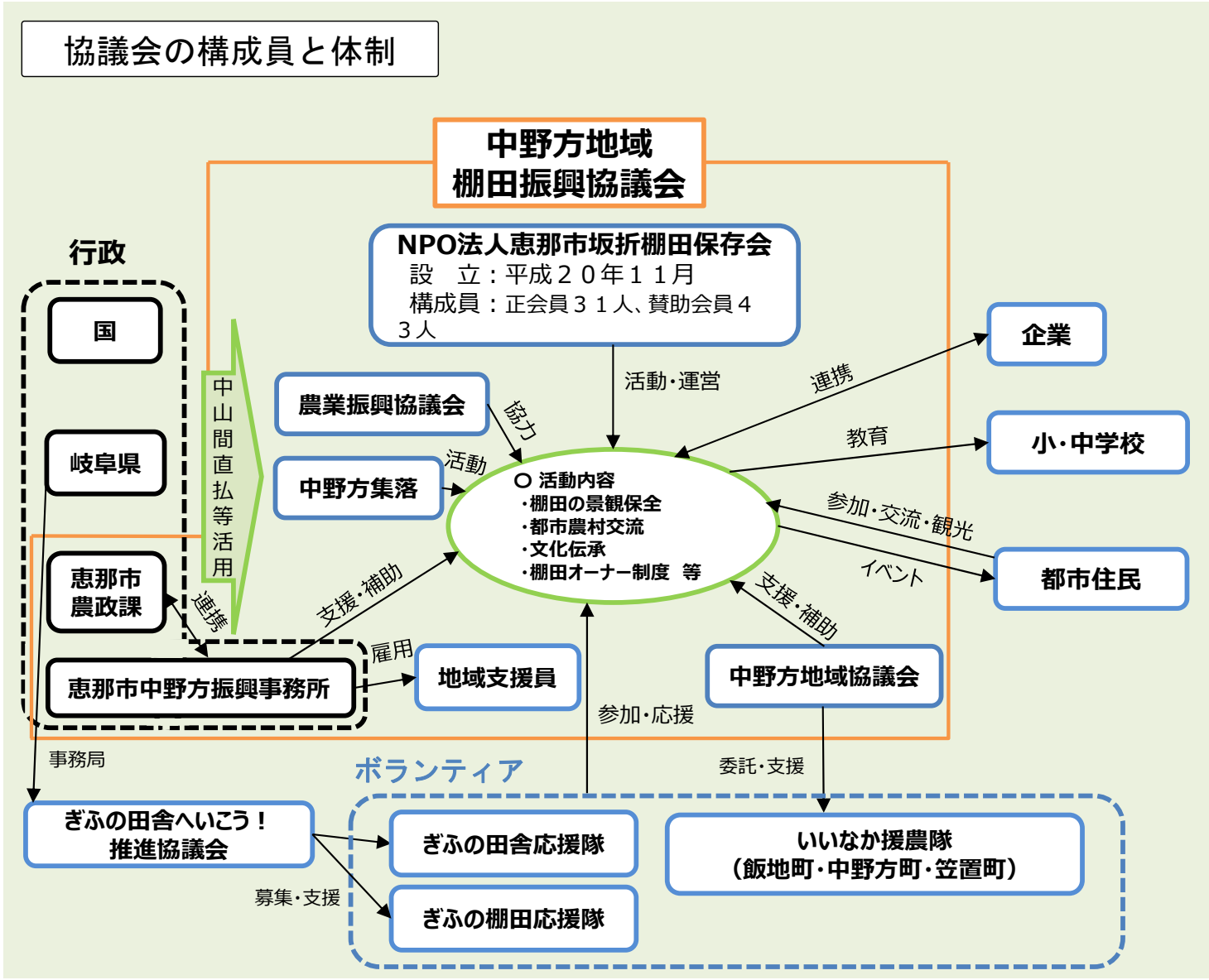
基本情報



● 棚田の名称 : 坂折棚田 等
● 面積 : 205.1ha
● 指定棚田地域 : 旧中野方村
● 認定・表彰実績 :
日本の棚田百選認定 : 坂折棚田
ぎふの棚田21選 : 坂折棚田
つなぐ棚田遺産認定
: 「日本の棚田百選」坂折棚田がある
岐阜県恵那市中野方町の棚田群

活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名
 - ・ 中山間地域等直接支払制度 (国)
 - ・ 農山漁村振興交付金 (国)
 - ・ 岐阜県棚田地域水と土保全基金事業 (県)
- 活用のポイント
 - ・ 棚田保全活動への参加促進
 - ・ 都市農村交流の推進



取組前の地域の状況

過疎化・高齢化の進展

人口減少・高齢化が著しく進展する中で、棚田地域を支える人が不足し、地域内外へのつながりや仕組みが少ない。

未作付け農地の増加

営農条件の不利な中山間地域にあるため、農業者の減少や担い手不足により、未作付け農地が増加傾向にある。



未作付け農地

棚田地域としての課題

美しい景観を保全するためには、「人づくり」が喫緊の課題。地域住民の意識向上とともに、「関係人口」創出のための仕組みづくりが必要となっている。

『棚田百選・つなぐ棚田遺産認定』

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

しごとづくり

○ 棚田地域のPR活動

- ・国の交付金を活用し、棚田プロモーションチラシを作成。
- ・坂折棚田を核とし、棚田フォトコンテストを中野方町全体の棚田風景を対象に開催。



↑ 棚田プロモーションチラシ

土地利用

活力づくり

○ 棚田の保全・伝統文化の継承

- ・県の補助事業を活用し、ボランティア協力のもと、未作付け農地への作付け、維持管理、豊作祈願の祭礼等を開催。



棚田の保全（棚田応援隊）

ボランティア活用
・ぎふの田舎応援隊
・ぎふの棚田応援隊
・いいなか援農隊

伝統文化の継承（田の神様灯祭り）

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

棚田地域の魅力発信

各種イベントに対して多くの観光客が訪れ、棚田プロモーションチラシやSNS、新聞等により、都市住民・地域住民ともに棚田の魅力を認識してもらうことができた。



↑ 棚田フォトコンテスト

土地利用

未作付け農地の発生抑制

都市農村交流活動等を活用し、未作付け農地の発生が抑制された。

今ある棚田を守る！！

活力づくり

関係人口の創出

周辺地域を含め活動を行う援農ボランティア「いいなか援農隊」も発足。ボランティアの棚田保全活動への関わりも増えている。

飯地町・中野方町・笠置町の3町が連携！！

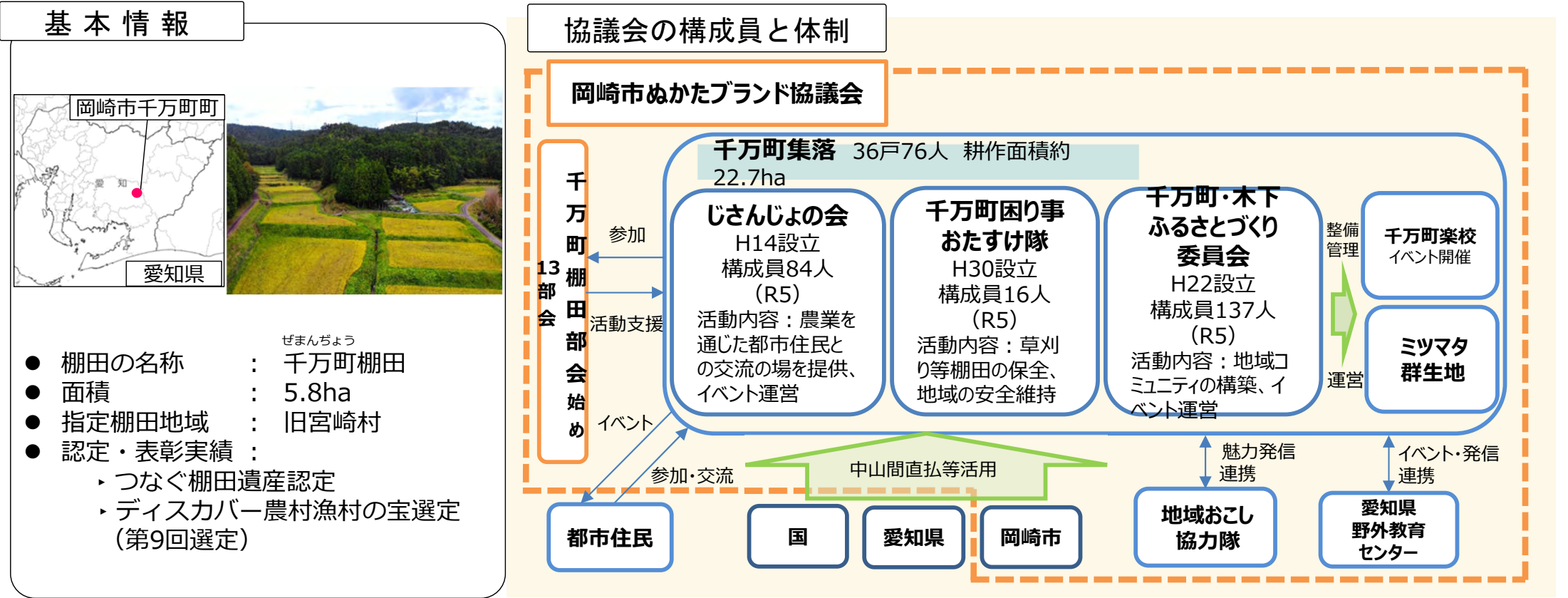


↑ 援農ボランティア（いいなか援農隊）

20 農地を地域で守る！地域資源を活かした山里の魅力発信の場

【千万町棚田・愛知県岡崎市千万町町】

○地域住民が主体となり棚田の保全活動を行うことで集落機能が強化されるとともに、地域資源を活かしたイベントの開催を通じて魅力を発信することで、都市住民を交えた地域活性化を実現。



活用した関係省庁の事業

- 中山間地域等直接支払交付金
⇒看板の設置
- 棚田ガイドの作成
⇒千万町町を知ってもらうきっかけづくり
- 令和4年度 消費者の部屋特別展示
⇒ぬかたのミネアサヒ広報



ぬかたのミネアサヒ

- 極少量生産のため希少価値が高い幻のお米「ミネアサヒ」をブランド米として販売。デザインや販売経路の検討によりその名を広めている。
- 市内の学校給食への提供によりブランド米としての価値を築き上げている。





取組前の地域の状況

地域

・高齢化進行・活動意欲の低下

協力意識はあるものの、高齢者世帯が多く地域全体として農作業等の活動意欲が薄れていた。畔のみならず市道・農道・山林に隣接している急斜面では草刈り等の作業がかなり負担となっていた。



・人口の減少

地域に魅力を感じて訪れる人はいるものの、新たな移住定住者は少なく空き家の増加が懸念されていた。また、地域としての活力を維持しつつ、より多くの魅力を発信するにはどうするべきか、苦戦していた。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

くらしづくり

・地域のおたすけ隊による支援

地域住民で構成される「千万町困り事おたすけ隊」の新たな参加者を募り担い手を確保。地域の高齢者等への支援策として、農地の草刈り作業のみならず必要な生活ニーズに対し支援を行うことにより、環境面の整備や地域の安全面での維持を図る。

定期的な柵の点検



水路の泥上げ

活力づくり

・棚田×地域資源「ミツマタ群生地」

棚田とミツマタという地域資源を活かしたウォーキングイベント等を通じて、都市住民との交流イベントの実施。地域資源を守るとともにイベントを通じて来訪者の増加を試みる。



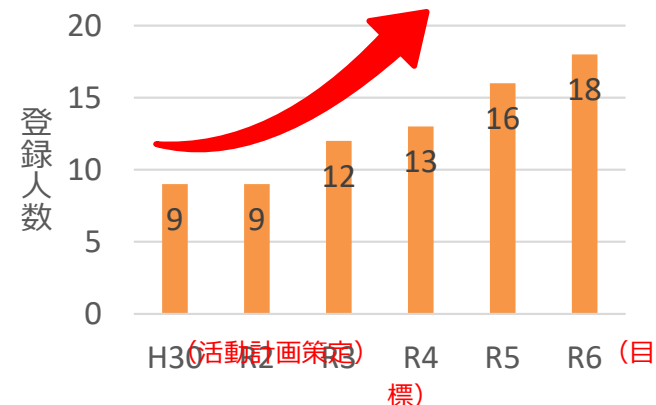
取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

くらしづくり

・おたすけ隊員の登録者の増加

農地は地域で守るという意識や相互扶助の気持ちが高まり、集落機能の強化につながった。千万町愛に溢れる地域住民が棚田の維持管理を図るとともに、良好な景観の維持に寄与している。

おたすけ隊登録者数



活力づくり

・来訪者増加に伴う住民の活動意識向上

ミツマタウォーキングイベントでは、じさんじの会が中心となりガイドを行っている。棚田が交流の場・魅力発信の場となり千万町に活力を与えた。地域住民の中には、来訪者に対して棚田の説明ができるようにと自主的に行動する者がいるなど、活動意識向上にもつながっている。今後も多様な人材を巻き込んでの魅力発信活動に期待している。



21 棚田法活用で「住んでよし。おとずれてよし。」の地域づくり

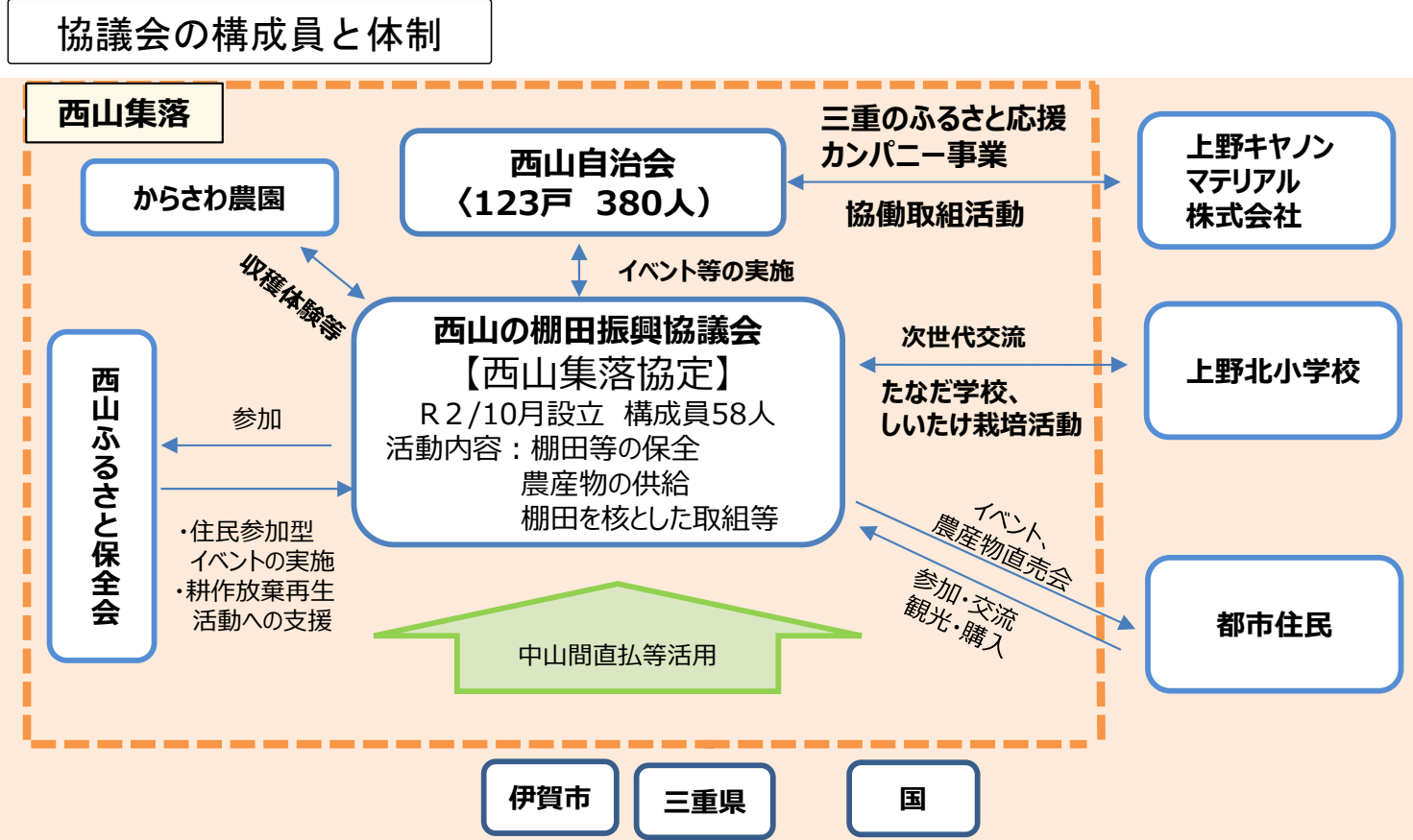
【西山の棚田・三重県伊賀市】

○「西山の棚田」は、豪雨災害から復興した棚田であり、先人たちの労苦の染み込んだ台地に四季折々に変化する棚田風景が広がる。次世代に残すために棚田の維持・管理、地域の活性化で持続的な中山間地を目指す。

基本情報




- 棚田の名称 : 西山の棚田
- 農地面積 : 63.5ha
(田42.9ha、畑20.6ha)
- 協定農地面積 : 25.9ha
- 指定棚田地域 : 伊賀市
- 認定・表彰実績 : つなぐ棚田遺産認定 (2022年3月)



活用した関係省庁の事業

- 多面的機能支払交付金事業
平成26年度第1期から「西山ふるさと保全会」として立ち上げ現在に至る。
- 中山間地域等直接支払交付金事業
令和2年度から「西山集落協定」として立ち上げ現在に至る。



コンシェルジュの活用状況

- 流アドバイザー「直売 地域づくり」講師による研修会を予定。
(2023/9/30)

取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

小区画不整形な農地に多大な労力が必要で、高齢化の進行にともない、担い手不足が深刻な状況である。

中山間地域等の条件不利において耕作放棄された棚田が地域内でも目立っている状況であった。

耕作放棄地の発生原因

- 高齢化で規模縮小や離農
- 核家族化で後継者が集落から離郷
- 圃場が軟弱等、耕作条件が悪く営農機械の使用等が困難
- 河川（水路）からの用水が不便
- 獣害被害を防止し切れない



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・棚田の復旧

西山ふるさと保全会／西山集落協定が中心となり耕作放棄された棚田を復旧。稲作への転換、景観作物を作付けし耕作放棄地を削減する。



荒廃農地の再生活動

しごとづくり

・イベント・体験学習の実施

- 上野北小学校児童を対象に「たなだ学校」を開催する。
- 地元企業と連携し定期的な協働取組で環境整備活動を行う。

・ガイドブックの制作

「西山の棚田 散策マップ」の作成で観光客の誘致を図る。



取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

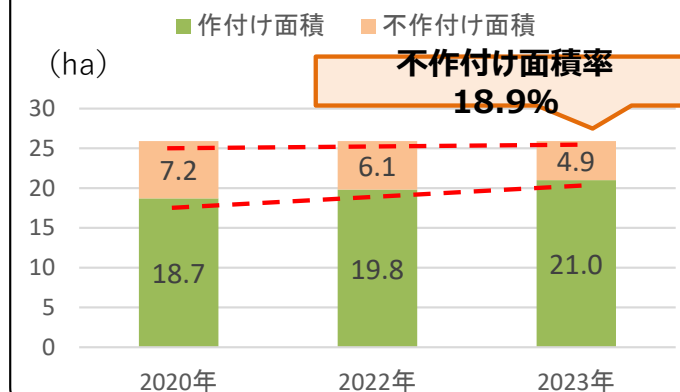
土地利用

耕作放棄面積(不作付け農地) 20%以下

耕作放棄された棚田を復旧し、不作付け面積を協定農地全体の20%以下に削減した。

（目標達成）

作付け面積の推移



しごとづくり

・イベント・体験学習の実施

- 「たなだ学校（田植え・稲刈り体験）」で、次世代交流、地域の活性化に繋がった。
- 上野キャノンマテリアル（株）との協働取組で地域が活性し訪問客も増えた。また、展望公園が美化された。
- 毎月の農産物直売会の開催で地域の活性化とともに収益にも繋がった。
「西山棚田米のブランド化」を推進中。
- 「棚田散策マップ」の効果で、棚田への訪問客が増えた。（地域活性化）